

令和 4 年度
学校教育学部入学式 —学長告辞—

166 名の新入生の皆さん、ご入学まことにおめでとうございます。上越教育大学の教職員を代表いたしまして、皆さんのご入学を心より歓迎いたします。

皆さんが大学受験に向けて勉学に励んだ期間、特にこの 2 年間は、新型コロナウイルス感染症のまん延で、とても大きな不安を抱えながら過ごされたのではないのでしょうか。今日、晴れて上越教育大学の入学式に参加してほっとされたことでしょうか。私たち教職員も、新型コロナウイルスの感染状況に一喜一憂し、いつものように授業ができるのだろうか、例年通りに入試ができるのだろうか、入学式もできるのだろうか、不安な気持ちでいましたので、今日の日の喜びは皆さんと同様です。皆さんは、これから 4 年間、この地で教師になるための勉学に励みますが、私たち教職員はその支援をさせていただきます。

皆さんがこれから生活するこの上越は、とても自然豊かな地域です。私は高校卒業までの 18 年間は福井県で過ごし、その後京都市で 19 年間は過ごし、上越の地で 25 年ほど生活していますが、上越の地が一番四季がはっきりしています。冬は雪起こしのかみなりから始まり、雪が積もり始めます。春になると木々が一斉に芽吹きます。今は、桜の花も満開ですから、ぜひ高田城址公園などを訪ねて、満開の桜あるいは夜桜を楽しんでください。そして夏になると、むしむしと暑い日が続きます。フェーン現象で気温がとくに高くなる日もあって、冬に雪が積もるなどとは思えないような状態になります。そして、秋になると、山々が美しい紅葉色に飾られます。直江津方面には、個人宅の庭を「国府もみじ園」として開放している美しい場所もあります。日本のスキー発祥の地と言われている金谷山や、上杉謙信の居城のあった春日山は、散歩ついでに軽装で訪ねることもできます。上越は、山にも海にも近い場所です。直江津方面に向かえば、海水浴場や、上越水族博物館などもあります。山も、里山ばかりではなく、日本百名山に数えられる妙高山や火打山、雨飾山もあります。また、高田の街中では、雁木づくりと呼ばれる雪国ならではの家屋を見ることもできますし、さらに、寺町通りにはたくさんのお寺があります。せっかくの機会ですから、この地の豊かな自然と文化をぜひ体験してください。体験するということは、学びの基盤です。豊かな体験を通して学んだことを基に、書物から得た知識も解釈できるようになるのだと思います。

イギリスの哲学者バートランド・ラッセルは、知識を Knowledge by Acquaintance と Knowledge by Description とに分けてとらえました。前者は、「直知による知識」、後者は、「記述による知識」と訳されます。体験的な知は、この「直知による知識」です。他の知識や推論に依拠せずに、自分自身が直接感知する知識なのです。そうした体験的な知を、皆さんには十分に蓄えていただきたいと思います。繰り返しますが、それが、さまざまなことを考え、自分なりの思考を構築する基盤になると思うからです。

もう一人哲学者に言及します。現在世界中で注目されているドイツのマルクス・ガブリエルが、「私は日本が好きだが」と前置きして、「日本は優しい独裁国家」だと述べています。私なりに解釈して述べれば、日本文化の中に見られる規範性の高さとか、共有されている美意識とかは、約束の時間に遅れない、

公共の場でもごみが落ちていなくて美観が守られているなどの社会秩序の維持に貢献しています。それは良い面ではあるのですが、悪い面としては、そうした暗黙のルールからの逸脱が許されないということになります。暗黙の集団の圧力があるといえるでしょう。そうした圧力は多様性の排除につながります。多様性（ダイバーシティ）は、現代社会においてとても重要なこととしてとらえられています。たとえば、ジェンダーの問題、人種差別の問題などでも、多様性を受け入れることの重要性が語られています。

皆さんは、これからこの大学という組織の中で生活し、学びを深めていくわけですが、その際にも、さまざまなルールがあります。もちろん、私としては、それは守っていただきたいのです。しかし、さまざまな事情でそこから逸脱せざるを得ない人が出てきたときに、その人を排除するという形で問題を解決するのではなく、その人とも共存できる可能性を考えてほしいと思います。多様性を受け入れるということは、ときには、自分の考えとは違う人を受け入れるということになりますから、つらい状況に陥ることもあり得ます。しかし、それでもなお、弱者にやさしい社会であってほしいと思います。そうしたことを実現することで、マルクス・ガブリエルの日本の印象は変えることができると私は思っています。

さて、すでに新聞や本学のホームページなどでも公表されていますが、本学は、一昨年度の卒業生の教員就職率が国立大学の中で全国第1位になりました。これまでもトップクラスの位置づけでしたが、なかなか第1位にはなれず、ようやく20年ぶりに第1位となりました。皆さんも、教員志望の方がほとんどだと思いますので、先輩にならって、すべての希望者が4年後には、教職に就くことを祈念しています。教職は、ブラックな仕事であるかのように報道されることもあって、受験倍率が下がる傾向にあります。たしかに、人間相手の仕事ですから難しい部分もあることは否めませんが、しかし、子どもの成長を見守り、そして自分自身の成長を実感できる素晴らしい仕事だと私は思います。受験倍率が下がるということは受かりやすいということにもなりますので、ぜひ頑張って教師になってください。皆さんの就職については、学内の就職支援室（プレイスメントプラザ）とそこにいらっしゃるキャリアコーディネーターの先生方が支援してさせていただきます。

皆さんが入学されたのは、学校教育学部ですが、学部の上に大学院という組織もあります。本学の場合、学部の入学定員は160名ですが、その上には、2年間の専門職学位課程（190名）および修士課程（20名）があります。普通の大学では、学部の入学定員の方が多いのですが、本学では、それが逆になっています。そして、更にそのうえに博士課程があります。本学は兵庫教育大学連合大学院博士課程の構成校になっていますので、博士課程への進学も可能です。そういう道も用意されているということ、記憶の片隅にとどめておいていただければと思います。

先ほど、新型コロナウイルスに触れました。弱毒化しているという見立てもあるようですが、残念なことに、感染は、まだ十分には収まってはいません。国や県や市では、感染予防と同時に、経済活動の活性化についても考えなければなりませんから、ときには経済活動を優先しているかのように思われるときもあります。しかし、教育大学としては、なんとしても子どもたちへの感染を防ぎたいと思います。本学では、教育実習をはじめとして、皆さんがさまざまな形で学校現場を訪ねる機会があります。必要などときには、もちろん、大学から指示を出すこともありますが、皆さん自身が日頃から自分の健康管理

に十分に注意していただきたいと思います。

最後になりましたが、式典の規模の縮小によってご参加いただくことがかなわなかったご来賓の方々、保護者の皆様には、お詫び申し上げ、大学として、新入生の皆さんのこれからの大学生活を支援することをお誓い申し上げて、告辞といたします。

令和4年4月5日
国立大学法人 上越教育大学長
林 泰成